

第1回 浦添運動公園再整備計画検討委員会
会議録

【開催概要】

日 時	令和4年12月26日(月) 14:00～16:00
場 所	浦添市民体育館(ANA ARENA 浦添) 1階 会議室
議事次第	1. 委員長及び副委員長の選出 2. 議事 (1) 委員会の設置について (2) ウラオソイ スポーツ・観光交流拠点形成推進事業について (3) 浦添運動公園及び拠点施設について (4) 今後のスケジュール

【出席者】

(1) 浦添運動公園再整備検討委員会

委員			
神谷 大介	国立大学法人 琉球大学 工学部 准教授	出席	委員長
友寄 孝	一般社団法人 沖縄しまて協会 理事 兼 技術環境研究所 所長	出席	副委員長
大石 智弘	内閣府 沖縄総合事務局 開発建設部 公園・まちづくり調整官	出席	
徳松 安史	沖縄振興開発金融公庫 調査部 地域連携情報室 室長	出席	
金城 孝	一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー 国内事業部長 兼 東京事務所長	出席	
下地 浩之	一般社団法人 沖縄県造園建設業協会 会長	出席	
照屋 満	浦添市スポーツ協会 理事 (浦添市陸上競技協会副会長)	欠席	
田前 学	社会福祉法人 浦添市社会福祉協議会 事務局長	出席	
玉城 英吉	浦添自治会会長 小湾自治会長 (浦添市スポーツ協会理事)	出席	
関戸 塩	浦添市 PTA 連合会 会長	出席	

アドバイザー			
高原 直泰	沖縄ＳＶ株式会社 代表取締役ＣＥＯ	欠席	代理出席 塩川 誠（営業部長兼ホームタウン担当）
荻堂 盛助	一般社団法人 浦添市身体障がい者福祉協会 副会長	出席	
譜久里 武	一般社団法人 アスリート工房 代表	出席	

(2) 事務局

浦添市			
嘉味田 朝	市民部経済文化局 局長	出席	
平古場 祐樹	市民部経済文化局 文化スポーツ振興課 技幹	出席	
金城 直子	市民部経済文化局 文化スポーツ振興課 課長	出席	
親富祖 弘也	市民部経済文化局 文化スポーツ振興課 係長	出席	司会
兼城 孝之	市民部経済文化局 文化スポーツ振興課 技査	出席	議事説明
徳永 徹	都市建設部 美らまち推進課 課長	出席	
嘉手納 喜幸	都市建設部 美らまち推進課 係長	出席	
比嘉 亨	都市建設部 新施設建設課 課長	出席	
協力業者			
小川 勇樹	株式会社 中央建設コンサルタント	出席	令和４年度委託業務受注業者
長松 隼一郎	株式会社 中央建設コンサルタント	出席	令和４年度委託業務受注業者

【議事に対する調査、検討及び意見の概要】

1. 委員長及び副委員長の選出

- | | |
|-------|-------------------------|
| [事務局] | (委員長に神谷委員、副委員長に友寄委員を提案) |
| [委員] | (異議なし) |
| [事務局] | (委員長を神谷委員、副委員長を友寄委員に決定) |

2. 議事

- | | |
|-------|--|
| [事務局] | (議事の説明)
(1) 委員会の設置について
(2) ウラオソイ スポーツ・観光交流拠点形成推進事業について(現場視察含む)
(3) 浦添運動公園及び拠点施設について
(4) 今後のスケジュール |
| [委員] | 新体育館が整備された後、既存の体育館をどうするのか。 |
| [事務局] | 新体育館の整備が完了する時期に築40年程になる。今後の方針についても、本委員会の中で議論していきたい。 |
| [委員] | 新体育館をプロチームの本拠地になるように整備してはどうか。 |
| [事務局] | プロチームの本拠地として利用することを想定しており、新体育館整備の検討段階から、県内の団体と意見交換を継続的に行っている。引き続き検討していく。 |
| [委員] | 駐車場の整備などの考えについてお聞きたい。 |
| [事務局] | まずは、公共交通の利用促進を進めたいと考えている。ただし、新体育館整備によって駐車場の不足も想定されることから、駐車場整備についても検討していく。 |
| [委員] | 駐車場がカルチャーパーク側にもあるが、土日祝祭日やイベント時には、運動公園利用者の車で満車になる。また駐車場だけではなく、運動公園やカルチャーパーク周辺の道路が混雑している。周辺駐車場からの運動公園への動線等をしっかり考えてほしい。 |
| [事務局] | まずは公共交通の利用促進を第一に考え、今回の事業の中で検討していく。 |
| [委員] | カルチャーパークと運動公園の2ヶ所が広域避難場所に指定されており、「ボランティア等の活動拠点となる公園等の広場」とあるが、具体的にどういうことか。 |

[事務局]	災害時には多くのボランティアの方が訪れ活動を行うことになり、その活動の拠点となることが求められる。今後、公園に必要な防災機能に関して防災担当部署と調整していく。
[委員]	浦添市を訪れている観光客がどのような理由で訪れているのかなど、もう少し詳細な分析が必要である。 「利用者の視点」の「県外の利用者・未利用者」の意味合いがとても広い。県外観光客など対象を具体的にしてはどうか。
[事務局]	頂いた意見を基に、再度見直しを行う。
[委員]	キャンプを目当てに来園している方に対して、アンケート調査等を行うことで、今後の事業の参考になるのではないかな。 「スポーツコンベンションの推進」に関しては、関係課や関係団体に対してヒアリングを行い、どのような施設が求められているのか意識しながら事業の検討を行ったほうが良い。 駐車場に関して、コミュニティバスとの連携や、モノレールの浦添前田駅やおもろまち駅から、運動公園へのシャトルバスなどの検討が必要ではないかな。
[事務局]	公共交通との連携に関しては、コミュニティバスを担当する関係課と調整しながら今後の取り組みについて検討していく。
[委員]	現体育館を残したままの状態、現状の正面入り口から新体育館までの動線を整備することは難しいと考える。正面入り口にゲート広場を設けて、交流を促すことなども考えられることから、自由度を持ちながら、運動公園内の再整備の検討を行ってほしい。
[事務局]	新体育館整備後の新しいアプローチ空間や、現体育館の規模縮小による運営など、今後の委員会の中で議論していきたい。
[委員]	新体育館整備について、観客席数は最大何席になるのか。
[事務局]	新体育館の座席数は合計で 3,000 席になる。
[委員]	正面ゲートからの動線について、整備後の勾配を教えてください。
[事務局]	「沖縄県福祉のまちづくり条例」の整備基準では、勾配が 8%に指定されているので、その基準に適合する必要がある。場合によっては階段の設置や、車椅子用のスロープの設置を考えていく。
[委員]	運動公園の再整備について、既存施設の長所と短所を把握するために、利用者の声をしっかり聞き入れるべきだと考える。
[事務局]	過去に行ったアンケート調査で、利用者のニーズを把握することが出来るか整理し、今後、アンケート調査などが必要か検討していきたい。

[委員]	今回の再整備計画は、新体育館の整備に合わせて、短期的にできることを考えていくのか、それとも長期を見据えた上で、今回の新体育館整備の期間で出来ることをまとめていくのか。
[事務局]	この事業計画の期間は5年間として、短期的なスケジュールになっている。まずは、今回の基本構想計画の中で目標とする指針を作成し、5年間で実施する事業内容を提示したい。
[委員]	本当に現体育館と新体育館の2つの施設が必要であるのか疑問に感じている。
[事務局]	以前より、現市民体育館の稼働率は非常に高く、現時点では、新体育館整備により、既存体育館を取り壊すという方向性にはなっていない。今後の方針についても、本委員会の中で議論していきたい。
[委員]	「観る」スポーツで、約3,000席の座席数を満席にするための取組など、どのように考えているのか。 市がイメージする観光拠点とするためには、運動公園でどのような観光客の誘致を行うのかなど、検討が必要ではないか。 Park-PFIの取り組みは、新体育館整備後の、現体育館の利用のあり方で左右される面があるため、現体育館のあり方と併せてPark-PFIを検討する必要があるのではないか。
[事務局]	財政予算を考えた際に、財政予算を縮減する一つの方法として、Park-PFIをキーワードとして挙げている。次回の委員会ではPFIの内容について、コンセッション事業など取り上げていきたい。
[委員]	那覇空港から運動公園までの交通を考える際には、「個人の観光客」と「複数名の団体」とで分けて考える必要がある。既存のアンケートなどを活用して、実態の把握を行う必要がある。 那覇空港からのアクセス性は良いと記載しているが、平日、土日、時間帯を考慮するとアクセス時間の差が出てくる。
[事務局]	色々な公共交通機関を活用しながら、どのようなアクセスがよいか検討していきたい。
[委員]	持続可能が社会的にキーワードになっている中、持続可能な体育館の在り方として、設備やエネルギーの獲得方法など、どのような検討をしているのか。
[事務局]	新体育館における設備・エネルギーに関して、新体育館の設備等は、現在設計を行っている段階である。防災の観点からも持続可能性について整理をしているところである。
[委員]	新体育館を整備することによって、陸上競技場の観客席が一部減少するという話だが、それによる影響とはどういったものがあるか。
[事務局]	新体育館整備により減少するメインスタンドを確保するため、競技場面積を縮小する可能性がある。しかしながら、整備後も、陸上競技を実施できるよう整備を検討していく。また、プ

	ロサッカーチームのキャンプ地としての利用も考えており、今後の陸上競技場のあり方についても検討していく。
[委員]	メインスタンドについて、一部は新体育館内に設置されるということだが、国道330号側にメインスタンドを設置することは可能か。
[事務局]	陸上競技場の更新を行う際には、現状の 6,300 人規模を確保できるよう、メインスタンドの位置について検討していく。
[委員]	陸上競技場は県内でも利用率の高い陸上競技場である。新体育館整備で5年間利用できないことは、市民にとって大きな問題であり、代替の場所の確保など必要ではないか。 まずは、市民サービスが向上する快適な環境を整備することで、観光需要にも繋がると考えるため、利用者のニーズを聞いて検討してほしい。
[事務局]	新体育館を整備すると同時に陸上競技場の更新を考えており、整備期間を圧縮することによって、利用者への制限を少なくしたいと考えている。しかし、整備期間中は利用出来なくなることから、2023 年 1 月と 2 月に運動公園利用者に対しての説明会を開催する予定である。
[委員]	陸上競技場は、障がい者には使いにくい状況である。例えば、駐車場からトラックが遠い、駐車場が満車の場合使えない、競技用の車椅子に乗り降りするだけのスペースが不足しているなどがある。また、園内は勾配があるため、車椅子に移動する際に車椅子から落ちる可能性がある。
[事務局]	陸上競技場を整備する上で、車椅子を利用する方など障がいをもつ方が利用しやすい施設整備を検討していく。
[委員]	競技に求められる必要最低限の諸室・設備が整備されることが重要である。また、その諸室の整備が観光面での利用にも影響する。
[事務局]	新体育館の諸室に関しては、ヤクルトスワローズが使用する上で必要な諸室等の整備を予定している。また、プロサッカーチームのキャンプ誘致等を考えていることから、メインスタンドの下階にも必要な諸室の整備を予定している。諸室や設備が他の競技で兼用できるか等、検討していきたい。
[委員長]	運動公園の利用シーンを、運動だけでなく観光の面からも説明できたら分かりやすい。 市民の健康づくりの利用に対しての代替施設など、浦添市だけの問題ではなく、那覇地区としてどのように対応するのか等の話しも必要と考えられる。 駐車場や、2 つの体育館に関して、利用者にどういう使い方をしてほしいのか、また、運動公園側としてはどのように使っていきたいのかを考えて、こういう使い方をしよう、という説明の仕方が出来ればわかりやすいと考えられる。

以上